

# Systemwalker Runbook Automation V14g

## トラブルシューティングガイド

Windows/Linux

B1X1-0043-03Z0(00)  
2011年7月

# まえがき

---

## 本書の目的

本書は、Systemwalker Runbook Automationの以下のバージョンで発生したトラブルの対処方法について説明しています。

- Systemwalker Runbook Automation V14.1.0
- Systemwalker Runbook Automation V14.1.0A

本書は、以下のソフトウェア技術情報ホームページで最新版が提供されます。

最新版をご確認のうえ、ご利用ください。

- <http://software.fujitsu.com/jp/technical/systemwalker/runbook/>

## 本書の読者

本書は、Systemwalker Runbook Automationの基本的な操作、機能を理解し、Systemwalker Runbook Automationを使用して、自動運用プロセスを管理する方を対象にしています。

## 略語表記について

- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) 7”と表記します。
  - Windows(R) 7 Home Premium
  - Windows(R) 7 Professional
  - Windows(R) 7 Enterprise
  - Windows(R) 7 Ultimate
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008”と表記します。
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard x64 Edition
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise x64 Edition
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Vista(R)”と表記します。
  - Windows Vista(R) Home Basic
  - Windows Vista(R) Home Premium
  - Windows Vista(R) Business
  - Windows Vista(R) Ultimate
  - Windows Vista(R) Enterprise
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003”と表記します。
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
  - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition

- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) XP”と表記します。
  - Microsoft(R) Windows(R) XP Professional x64 Edition
  - Microsoft(R) Windows(R) XP Professional
  - Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition
- Microsoft(R) Cluster Server、またはMicrosoft(R) Cluster Serviceを、“MSCS”と略しています。
- Windows上で動作するSystemwalker Runbook Automationを“Windows版”と表記します。
- Linux上で動作するSystemwalker Runbook Automationを“Linux版”と表記します。

## 輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または提供する場合は、外国為替および外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。

## 商標について

ITIL(R)は、英国政府OGC (Office of Government Commerce) および米国特許商標局の登録商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft、Windows、Windows ServerおよびMicrosoft Cluster Serviceは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Red HatおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Systemwalker、Interstage、CollaborationRing、およびSymfowareは、富士通株式会社の登録商標です。

UNIXは、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。

VMware、VMwareロゴ、Virtual SMPおよびVMotionはVMware, Incの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

また、本書に記載されている会社名、システム名、製品名等には必ずしも商標表示(TM・(R))を付記していません。

Microsoft Corporationのガイドラインに従って、画面写真を使用しています。

## 出版年月および版数

版数	マニュアルコード
2010年7月 初版	B1X1-0043-01Z0(00) / B1X1-0043-01Z2(00)
2011年1月 第2版	B1X1-0043-02Z0(00) / B1X1-0043-02Z2(00)
2011年3月 第2.1版	B1X1-0043-02Z0(01) / B1X1-0043-02Z2(01)
2011年7月 第3版	B1X1-0043-03Z0(00) / B1X1-0043-03Z2(00)

## 著作権表示

Copyright 2010-2011 FUJITSU LIMITED

# 目次

第1章 トラブル対処の流れ	1
1.1 調査資料の採取について	1
1.1.1 管理サーバの保守情報	1
1.1.2 開発コンピュータの保守情報	1
1.1.3 連携サーバ/中継サーバ/業務サーバの保守情報	2
1.2 ログファイルについて	2
第2章 開発環境に関するトラブルシューティング	4
2.1 起動に関するトラブルシューティング	4
2.1.1 Studioの起動に失敗する	4
2.1.1.1 対処	4
2.2 画面に関するトラブルシューティング	4
2.2.1 パースペクティブを開くことができない	4
2.2.1.1 対処	4
第3章 Webコンソールに関するトラブルシューティング	5
3.1 ファイルアップロード時のトラブルシューティング	5
3.1.1 「有効なファイルパスを入力してください。」エラーメッセージが表示される場合	5
3.1.1.1 対処	5
第4章 導入に関するトラブルシューティング	6
4.1 インストールに関するトラブルシューティング	6
4.1.1 Systemwalker Runbook Automationのインストールで異常が発生した場合	6
4.1.1.1 対処	6
4.2 セットアップに関するトラブルシューティング	6
4.2.1 エージェントのセットアップ時に、swncctrl(エージェント制御コマンド)を実行すると「指定されたパスが見つかりません」と表示され、実行できない	6
4.2.1.1 対処	6
4.2.2 swrba_setupコマンドが失敗する場合	6
4.2.2.1 対処	6
4.2.3 LDAPへの組織の作成、グループの作成、ユーザー登録が失敗する場合	7
4.2.3.1 対処	7
第5章 起動に関するトラブルシューティング	8
5.1 Systemwalker Runbook Automation管理サーバ起動の失敗に関するトラブルシューティング	8
5.1.1 DbService : setConnection: Connection to database server failed.で始まるエラーメッセージがでる場合	8
5.1.1.1 対処	8
5.1.2 LdapBroker : getContext: Could not create the directory services. {[LDAP: error code 49 - Invalid Credentials]}で始まるエラーメッセージが出る場合	8
5.1.2.1 対処	8
5.1.3 getContext: Could not create the directory services.で始まるエラーメッセージが出る場合	9
5.1.3.1 対処	9
5.2 Systemwalker Runbook Automation管理サーバ起動時のエラーに関するトラブルシューティング	9
5.2.1 Active Directoryに関連するエラー	9
5.2.1.1 対処	9
第6章 自動実行に関するトラブルシューティング	11
6.1 運用操作部品に関するトラブルシューティング	11
6.1.1 運用操作部品の実行時にエラーが発生する	11
6.1.1.1 対処1	11
6.1.1.2 対処2	11
6.2 自動運用プロセスに関するトラブルシューティング	11
6.2.1 自動運用プロセスが異常な状態になる	11
6.2.1.1 対処	12
6.2.1.2 リカバリ異常時の対処	15

# 第1章 トラブル対処の流れ

Systemwalker Runbook Automationでは、トラブルに対して原因を追及するために、保守情報を収集することを推奨しています。トラブル直後の保守情報を収集することにより、本章の対処方法で対処できなかった場合のトラブルに対して、調査および原因追及ができます。

トラブルが発生してからの手順は、以下のようになります。

1. トラブルが発生したと思ったら、まず保守情報を収集します。
2. 発生している現象に対して、それぞれの対処、確認作業を行います。
3. 対処できた場合は、そのまま運用を継続してください。  
手順1で採取した保守情報は、次のトラブル時に利用するために保管しておいてください。
4. 対処できなかった場合は、手順1で収集した保守情報を富士通技術員に送付し、調査を依頼してください。

## 1.1 調査資料の採取について

異常が発生している管理サーバ、開発コンピュータまたは連携サーバで、以下に示す資料を採取してください。

### 1.1.1 管理サーバの保守情報

管理サーバの調査資料は、トラブル調査資料採取コマンド`swrba_collectinfo`を使用して採取します。

コマンドの使用例を、以下に示します。

#### 【Windows】

```
[Systemwalker Runbook Automationインストールディレクトリ]¥bin¥swrba_collectinfo [格納先ディレクトリ名]
```

#### 【Linux】

```
/opt/FJSVswrbam/bin/swrba_collectinfo [格納先ディレクトリ名]
```



#### 参照

swrba\_collectinfoコマンドの使用方法については、“Systemwalker Runbook Automation リファレンスガイド”を参照してください。



#### 参考

Systemwalker Runbook Automationのログファイルのサイズや保存世代が初期値の場合で、最大100MB程度の空き容量が必要です。

### 1.1.2 開発コンピュータの保守情報

#### Systemwalker Runbook Automation Studioの調査資料

Systemwalker Runbook Automation Studioの調査資料は、保守情報収集コマンド`swrbacolinf`を使用して採取します。採取に失敗した場合は、コマンドが出力したメッセージをお知らせください。

コマンドの使用例を、以下に示します。

```
[Systemwalker Runbook Automation Studioインストールディレクトリ]¥swrba¥bin¥swrbacolinf [出力先のディレクトリ名]
```



参照

swrbacolinfコマンドの使用方法については、“Systemwalker Runbook Automation Studio 利用ガイド”を参照してください。

### 1.1.3 連携サーバ/中継サーバ/業務サーバの保守情報

#### エージェントの調査資料

エージェント機能の調査資料は、エージェントトラブル調査資料採取コマンドswrba\_collectinfo\_agentを使用して採取します。コマンドの使用例を以下に示します。

##### 【Windows】

```
[エージェントインストールディレクトリ]¥bin¥swrba_collectinfo_agent [格納先ディレクトリ名]
```

##### 【Linux】

```
/opt/FJSVswrbaa/bin/swrba_collectinfo_agent [格納先ディレクトリ名]
```



参照

swrba\_collectinfo\_agentコマンドの使用方法については、“Systemwalker Runbook Automation リファレンスガイド”を参照してください。

#### 構成管理エージェントの調査資料

構成管理エージェントの調査資料は、CMDBトラブル調査資料採取コマンドcmdbgetinfoを使用して採取します。コマンドの使用例を以下に示します。

##### 【Windows】

```
[エージェントインストールディレクトリ]¥CMDB¥FJSVcmdba¥bin¥cmdbgetinfo.bat -d [格納先ディレクトリ名]
```

##### 【Linux】

```
/opt/FJSVcmdba/bin/cmdbgetinfo.sh -d [格納先ディレクトリ名]
```



参照

cmdbgetinfoコマンドの使用方法については、“Systemwalker Runbook Automation リファレンスガイド”を参照してください。



参考

構成管理エージェントのログファイルのサイズや保存世代が初期値の場合で、最大150MB程度の空き容量が必要です。

## 1.2 ログファイルについて

Systemwalker Runbook Automationの運用中に問題が発生した場合の情報採取のために、次のログファイルを確認してください。

- IBPMServer.log -このファイルには、Systemwalker Runbook Automation管理サーバにおける、すべてのエラーが出力されます。このログファイルを参照することで、問題解決のための有益な手がかりが得られます。例えば、データベースサーバが停止していることがわかります。

このファイルは、Systemwalker Runbook Automation管理サーバの以下のフォルダに格納されます。  
<Systemwalker Runbook Automationインストールディレクトリ>/IBPM/server/instance/default/logs



## 第2章 開発環境に関するトラブルシューティング

### 2.1 起動に関するトラブルシューティング

#### 2.1.1 Studioの起動に失敗する

##### エラーメッセージ

Studioの起動に失敗しました。  
すでにStudioが起動されているか、または、終了処理中のStudioが存在します。  
他のStudioが起動されていない場合は、前回終了したStudioがまだ終了処理中のため、しばらくしてから再度起動してください。

##### 対象バージョンレベル

- ・ Windows版: V14.1.0以降
- ・ Linux版: V14.1.0以降

##### 2.1.1.1 対処

###### 確認ポイント

- Studioがすでに起動されていませんか。
- Studioを終了してすぐに起動していませんか。

###### 対処方法

- Studioを複数起動することはできません。Studioが起動されていないことを確認してください。
- Studioが起動されていない場合は、前回終了したStudioがまだ終了処理中の可能性があります。しばらくしてから再度起動してください。

### 2.2 画面に関するトラブルシューティング

#### 2.2.1 パースペクティブを開くことができない

##### 対象バージョンレベル

- ・ Windows版: V14.1.0以降
- ・ Linux版: V14.1.0以降

##### 2.2.1.1 対処

###### 確認ポイント

- すべてのパースペクティブを閉じていませんか。

###### 対処方法

- すべてのパースペクティブを閉じて[ウインドウ]–[パースペクティブを開く]メニューからパースペクティブを開くことができなくなった場合はStudioを再起動することで、パースペクティブを開くことができるようになります。

## 第3章 Webコンソールに関するトラブルシューティング

### 3.1 ファイルアップロード時のトラブルシューティング

#### 3.1.1 「有効なファイルパスを入力してください。」エラーメッセージが表示される場合

##### エラーメッセージ

有効なファイルパスを入力してください。

##### 対象バージョンレベル

- ・ Windows版: V14.1.0以降
- ・ Linux版: V14.1.0以降

##### 3.1.1.1 対処

##### 確認ポイント

Internet Explorerのセキュリティの設定が高になっていませんか。

##### 対処方法

Webコンソールからローカルファイルをアップロードできるようにするため、Internet Explorerに以下の設定を行ってください。

1. [ツール]メニューから[インターネットオプション]を選択します。
2. [セキュリティ]タブ内の、[信頼済みサイト]ゾーンのセキュリティのレベルから[レベルのカスタマイズ]を選択します。
3. [その他]のカテゴリの[サーバーにファイルをアップロードするときにローカルディレクトリのパスを含める]オプションを「有効」にして[OK]をクリックします。
4. [セキュリティ]タブ内の[信頼済みサイト]ゾーンを選択し、[サイト]ボタンをクリックします。
5. 信頼済みサイトにWebコンソールのURLを追加します。

## 第4章 導入に関するトラブルシューティング

### 4.1 インストールに関するトラブルシューティング

#### 4.1.1 Systemwalker Runbook Automationのインストールで異常が発生した場合

##### 4.1.1.1 対処

Systemwalker Runbook Automationのインストールで異常が発生した場合、以下の対処を実施してください。

- 画面に出力されたエラーメッセージから、“Systemwalker Runbook Automationメッセージ集”の該当するメッセージを参照し、記載されている内容に従って対処・確認を実施してください。
- シスログ (Windowsの場合はイベントログ)を参照し、該当するメッセージから対処してください。本製品は、Interstage Application Serveの機能を利用しているため、Interstage Application Serverのメッセージが出力される場合があります。Interstage Application Serverのメッセージについては“Interstage Application Serverメッセージ集”を参照してください。

### 4.2 セットアップに関するトラブルシューティング

#### 4.2.1 エージェントのセットアップ時に、swncctrl(エージェント制御コマンド)を実行すると「指定されたパスが見つかりません」と表示され、実行できない

##### 4.2.1.1 対処

###### 対象バージョンレベル

- Windows版: V14.1.0以降
- Linux版: V14.1.0以降

###### 確認ポイント

エージェントのインストールが完了する前から起動していたコマンドプロンプト上で、コマンドを実行していませんか。

###### 対処方法

コマンドプロンプトを新しく起動して、実行してください。

#### 4.2.2 swrba\_setupコマンドが失敗する場合

##### 4.2.2.1 対処

Systemwalker Runbook Automationのインストールで異常が発生した場合、以下の対処を実施してください。

- 画面に出力されたエラーメッセージから、“Systemwalker Runbook Automationメッセージ集”の該当するメッセージを参照し、記載されている内容に従って対処・確認を実施してください。
- シスログ (Windowsの場合はイベントログ)を参照し、該当するメッセージから対処してください。本製品は、Interstage Application Serveの機能を利用しているため、Interstage Application Serverのメッセージが出力される場合があります。Interstage Application Serverのメッセージについては“Interstage Application Serverメッセージ集”を参照してください。

## 4.2.3 LDAPへの組織の作成、グループの作成、ユーザー登録が失敗する場合

---

### 4.2.3.1 対処

異常が発生した場合には、出力されたエラーメッセージから、ご利用のLDAPのマニュアルを参照して対処してください。

LDAPにInterstage Directory Serviceを利用している場合には、“Interstage Application Serverメッセージ集”に記載があります。

## 第5章 起動に関するトラブルシューティング

### 5.1 Systemwalker Runbook Automation管理サーバ起動の失敗に関するトラブルシューティング

#### 5.1.1 DbService : setConnection: Connection to database server failed.で始まるエラーメッセージがでる場合

##### エラーメッセージ

```
DbService : setConnection: Connection to database server failed. Is the database server running and reachable through the network? {ORA-01089: immediate shutdown in progress - no operations are permitted.}
```

##### 対象バージョンレベル

- Windows版: V14.1.0以降
- Linux版: V14.1.0以降

##### 5.1.1.1 対処

##### 確認ポイント

<Systemwalker Runbook Automationインストールディレクトリ>/IBPM/server/instance/default/logsディレクトリ内のIBPMServer.logを確認します。

##### 対処方法

データベースが実行中であることを確認します。また、データベースが別のコンピュータで実行されている場合は、Systemwalker Runbook Automation管理サーバがインストールされているコンピュータからデータベースにアクセスできることも確認します。サーバホストコンピュータからtelnet <Database Server Hostname> <Port> を使用して、データベースホスト/ポートへの接続が確立可能であることを確認できます。

#### 5.1.2 LdapBroker : getContext: Could not create the directory services. {[LDAP: error code 49 - Invalid Credentials]}で始まるエラーメッセージが出る場合

##### エラーメッセージ

```
LdapBroker : getContext: Could not create the directory services. {[LDAP: error code 49 - Invalid Credentials]}
LdapBroker : getGroupMembersByDN: Could not retrieve the user groups. {Could not create the directory services. {[LDAP: error code 49 - Invalid Credentials]}}
LdapBroker : Could not retrieve the user groups. {Could not create the directory services. {[LDAP: error code 49 - Invalid Credentials]}}
```

##### 対象バージョンレベル

- Windows版: V14.1.0以降
- Linux版: V14.1.0以降

##### 5.1.2.1 対処

## 確認ポイント

<Systemwalker Runbook Automationインストールディレクトリ>/IBPM/server/instance/default/logsディレクトリ内のIBPMServer.logを確認します。

## 対処方法

Systemwalker Runbook Automation管理サーバのLDAPAccessUserID / LDAPAccessUserPasswordパラメーターでユーザー名とパスワードが正しく指定され、それらのユーザー名とパスワードを使用してディレクトリサーバにログインできることを確認します。

### 5.1.3 getContext: Could not create the directory services.で始まるエラーメッセージが出る場合

---

#### エラーメッセージ

```
getContext: Could not create the directory services.  
LdapBroker : getGroupMembersByDN: Could not retrieve the user groups. {Could not create the directory services.  
LdapBroker : Could not retrieve the user groups. {Could not create the directory services.
```

#### 対象バージョンレベル

- Windows版: V14.1.0以降
- Linux版: V14.1.0以降

#### 5.1.3.1 対処

##### 確認ポイント

<Systemwalker Runbook Automationインストールディレクトリ>/IBPM/server/instance/default/logsディレクトリ内のIBPMServer.logを確認します。

##### 対処方法

Systemwalker Runbook Automation管理サーバのLDAPServerパラメーターで指定したポートでLDAPサーバが実行中であることを確認します。サーバホストコンピュータからtelnet ldapServerHostName portを使用して、ホスト/ポートへの接続が確立可能であることを確認できます。

## 5.2 Systemwalker Runbook Automation管理サーバ起動時のエラーに関するトラブルシューティング

---

Systemwalker Runbook Automation管理サーバの起動時に発生するトラブルの事例およびその対処について説明します。起動に失敗した場合、以下の原因が考えられます。原因を調査し、それぞれ対処してください。

### 5.2.1 Active Directoryに関連するエラー

---

#### 対象バージョンレベル

- Windows版: V14.1.0以降
- Linux版: V14.1.0以降

#### 5.2.1.1 対処

##### 原因

リモートコンピュータにActive Directoryが配備されているため、Active Directoryが実行されていません。

## 対処方法

Active Directoryを起動してから、Systemwalker Runbook Automation管理サーバを起動します。

## 第6章 自動実行に関するトラブルシューティング

### 6.1 運用操作部品に関するトラブルシューティング

#### 6.1.1 運用操作部品の実行時にエラーが発生する

##### 対象バージョンレベル

- ・ Windows版: V14.1.0以降
- ・ Linux版: V14.1.0以降

##### 6.1.1.1 対処1

##### 対処方法

運用操作部品の実行時にエラーが発生した場合、以下のログが出力されます。ログの内容を確認して、エラーに対処してください。

- ・ 運用操作部品ログ

##### 運用操作部品ログ

Systemwalker Runbook Automationで提供している運用操作部品が出力するログは、以下の場所に出力されます。なお、利用者が開発した運用操作部品が出力するログのファイル名は、部品単位に決定することができます。運用操作部品のログの詳細は、“Systemwalker Runbook Automation 運用ガイド”の“運用操作部品のログについて”を参照してください。

##### 【Windows】

```
[Systemwalker Runbook Automationインストールディレクトリ] %swrbam%share%rbaope%work%log%swrba_standard.log
```

##### 【Linux】

```
/etc/opt/FJSVswrbam/share/rbaope/work/log/swrba_standard.log
```

##### 6.1.1.2 対処2

##### 確認ポイント

プロセス定義は、運用操作部品ノードまたはそれ以降のノードに遷移していますか。

##### 対処方法

プロセス定義が運用操作部品ノードまたはそれ以降のノードに遷移していない場合、管理サーバでエラーが発生している場合があります。

管理サーバのエラーについては、Webコンソールで確認します。

Webコンソールの操作方法およびエラーの対処については、“Systemwalker Runbook Automation 運用ガイド”の“運用操作部品のログについて”を参照してください。

### 6.2 自動運用プロセスに関するトラブルシューティング

#### 6.2.1 自動運用プロセスが異常な状態になる

##### 対象バージョンレベル

- ・ Windows版: V14.1.0以降
- ・ Linux版: V14.1.0以降



## 6.2.1.1 対処

### 対処方法



#### 注意

運用中のシステムへ影響を与える可能性がありますので、ここに記載している操作は、自動運用プロセスのテスト実施時や、本番運用中に管理サーバで障害が発生した時だけ実施してください。

自動運用プロセスの進行中に、管理サーバにシステムダウンなどの異常が発生した場合には、自動運用プロセスの進行が停止します。このような場合には、異常状態からの復旧後に`swrba_recoverprocess`コマンド(プロセスインスタンスのリカバリコマンド)を使用し、自動運用プロセスのリカバリを実施してください。

自動運用プロセスは、自動運用中に進行履歴を記録しています。`swrba_recoverprocess`コマンドは、この進行履歴に従い、自動運用プロセスの自動再開を行います。ただし、運用操作部品が実行中であり、なんらかの処理を業務サーバに対して実施しているタイミングでシステムダウンが発生した場合は、その自動運用プロセスは再開されずにエラー終了します。

ここに記載している操作は、以下の異常が発生した場合に実施してください。

- 管理サーバが何らかのトラブルでサーバダウンし、自動運用プロセスの進行が停止しているにも関わらずプロセス状態が“実行中”のままになっている場合
- 管理サーバでフェールダウンが発生したため自動運用プロセスの進行が停止しているにも関わらず、プロセス状態が“実行中”のままになっている場合

### 操作

手順中の画面は、V14.1.0の例です。

- 異常状態からの復旧後に、管理サーバにログインします。
- `swrba_status`コマンドで、Systemwalker Runbook Automationが正常に起動していることを確認します。

#### 【Windows】

```
[Systemwalker Runbook Automationインストールディレクトリ]¥bin¥swrba_status
```

#### 【Linux】

```
/opt/FJSVswrbam/bin/swrba_status
```

- `swrba_recoverprocess`コマンドを実行して、異常になった自動運用プロセスをリカバリします。

#### 【Windows】

```
[Systemwalker Runbook Automationインストールディレクトリ]¥bin¥swrba_recoverprocess
```

#### 【Linux】

```
/opt/FJSVswrbam/bin/swrba_recoverprocess
```

リカバリされた自動運用プロセスのプロセスインスタンスIDは、コマンド実行時に出力されます。

- `swrba_recoverprocess`コマンドを実行した結果、自動運用プロセスのリカバリに成功した場合  
例)

```
PROCESSID:1599523(ACTIVITYID:1599525) is recovered  
PROCESSID:1600057(ACTIVITYID:1600059) is recovered  
PROCESSID:1600595(ACTIVITYID:1600600) is recovered  
PROCESSID:1600595(ACTIVITYID:1600601) is recovered
```

```
PROCESSID:1600595(ACTIVITYID:1600602) is recovered
```

- swrba\_recoverprocessコマンドを実行した結果、自動運用プロセスをリカバリできなかった場合  
例)

```
PROCESSID:1600071(ACTIVITYID:1600073) recovery failed  
FSP_SW/RB-A_BASE: ERROR: 03013: I/O error. : PROCESSID='1600071' ACTIVITYID='160  
0073' PATH='C:\Fujitsu\Systemwalker\SWRBAM\etc\share\rbaope\opeparts\output\1600  
071_1600073\status.dat' DETAIL='invalid stream header'
```

4. リカバリされた自動運用プロセスの詳細は、swrba\_recoverprocessコマンド実行時に出力されたPROCESSIDの値を元に、swrba\_adminコマンドのpi-listオプションまたはpi-getオプションを指定することにより確認できます。

#### 【Windows】

```
[Systemwalker Runbook Automationインストールディレクトリ]\bin\swrba_admin
```

#### 【Linux】

```
/opt/FJSVswrbam/bin/swrba_admin
```

#### コマンド実行例:

PROCESSIDが12345のプロセスインスタンスの自動運用プロセスグループ名を特定する場合。

```
swrba_admin pi-list -piid 12345 -user swrbaadmin
```

5. リカバリされた自動運用プロセスの状態を、Webコンソールで確認する場合は、以下の手順で行ってください。

- a. Webコンソールにログインします。

```
http://<サーバ名>:<ポート番号>/console/Default/
```

- b. “手順4.”で特定したプロセスグループ名を選択し、[プロセス管理]タブをクリックします。

Systemwalker sample002 コンソール | プロセスグループ | 履歴 | 検索 | ヘルプ | 設定 | ユーザー ID: 0005 | ログアウト

タスク | **プロセス管理**

タスク

タスク ☒

マイタスク

タスク フィルタ: マイタスク

開く | 最新情報に更新

タスクが見つかりません

アクティビティ名	ID	プロセス インスタンス...	作成日	状態	期限	優先度
レコードが見つかりませんでした						

バージョン情報 | Copyright 2010-2011 FUJITSU LIMITED

- c. [プロセスインスタンス]サブメニューをクリックすると、プロセスインスタンスのリストが表示されます。

Systemwalker sample002 コンソール | プロセスグループ | 履歴 | 検索 | ヘルプ | 設定 | ユーザー ID: 0005 | ログアウト

タスク | **プロセス管理**

プロセス インスタンス

プロセス

プロセス フィルタ: プロセス

5 プロセス インスタンスが見つかりました

プロセス インスタンス...	ID	プロセス定義	開始日	状態	優先度	所有者	起業者	期限
sample002	1968	sample002	2010/12/20	終了	8	swrbaad...	0005	
sample002-3	1935	sample002-3	2010/12/20	終了	8	swrbaadmin	0005	
sample002	1907	sample002	2010/12/20	実行中	8	swrbaadmin	0005	
sample002-2	1882	sample002-2	2010/12/20	中止	8	swrbaadmin	0005	
sample002-3	1795	sample002-3	2010/12/20	終了	8	swrbaadmin	0005	

プロセス インスタンス詳細

全画面表示 | BPMNビューの更新

要約 | 詳細 | **BPMN**

Legend: 未開始 (白), 終了 (青), 割当て済 (緑), 待機中 (黄), エラー (赤), 一時停止/中止済 (橙)

sample002 BPMN Diagram: Start → swrba\_exe (任務のコマンド...) → Arrow2 → SwrbaGrp 1 (Activity 2) → OK → Exit1

d. リカバリされたプロセスインスタンスの状態を確認します。

プロセス インスタンス...	ID	プロセス定義	開始日	状態	優...	所有者	起業者	期限
sample002	1968	sample002	2010/12/20	終了	8	swrbaadmin	0005	
<b>sample002-3</b>	<b>1935</b>	<b>sample002-3</b>	<b>2010/12/20</b>	<b>終了</b>	<b>8</b>	<b>swrbaad...</b>	<b>0005</b>	
sample002	1907	sample002	2010/12/20	実行中	8	swrbaadmin	0005	
sample002-2	sample002-2	sample002-2	2010/12/20	中止	8	swrbaadmin	0005	
sample002-3	1795	sample002-3	2010/12/20	終了	8	swrbaadmin	0005	

## 参照

swrba\_statusコマンド、swrba\_recoverprocessコマンド、およびswrba\_adminコマンドの詳細については、“Systemwalker Runbook Automation リファレンスガイド”を参照してください。

## 6.2.1.2 リカバリ異常時の対処

### 注意

運用中のシステムへ影響を与える可能性がありますので、ここに記載している操作は、swrba\_recoverprocessコマンド(プロセスインスタンスのリカバリコマンド)実行後に、プロセスインスタンスの状態が“中止”になった場合だけ実施してください。

swrba\_recoverprocessコマンド実行後にプロセスインスタンスが中止状態になった場合は、プロセスインスタンスの処理内容に応じて、以下のどれかの対処を実施してください。

- プロセスインスタンスを始めから起動しなおす

各ノードの処理が連続的に実施されなければならない自動運用プロセスの場合、プロセスインスタンスを再度起動することで、自動運用プロセスの順序性が保たれます。プロセスインスタンスを起動する方法については、“Systemwalker Runbook Automation Studio利用ガイド”の“自動運用を行う”を参照してください。

- 中止されたノードからプロセスインスタンスを再開する

運用操作部品の再実行が必要な場合は、中止されたノードからプロセスインスタンスの処理を再開することで、運用操作部品が再度実行されます。

- 中止されたノードの前後のノードからプロセスインスタンスを再開する

任意のノードからプロセスインスタンスの処理を再開することで、自動運用プロセスを継続運用することが可能です。

どのノードから処理を再開するかは、運用操作部品ノードの処理内容に応じて判断してください。

## 操作

手順中の画面は、V14.1.0の例です。

1. Webコンソールにログインします。

`http://<サーバ名>:<ポート番号>/console/Default/`

2. [プロセス管理]タブをクリックします。

The screenshot displays the Systemwalker web console interface. The top navigation bar includes the Systemwalker logo, the text 'sample002 コンソール', and several menu items: 'プロセスグループ', '履歴', 'お気に入り', 'ヘルプ', '設定', 'ユーザー ID: 0005', and 'ログアウト'. The 'FUJITSU' logo is in the top right corner. Below the navigation bar, there are two tabs: 'タスク' and 'プロセス管理', with the latter highlighted by a red box. The main content area shows a 'タスク' sidebar on the left and a main panel for 'プロセス管理'. The main panel contains a search box, a filter dropdown set to 'マイタスク', and a '開く' button. Below this, a message states 'タスクが見つかりません'. A table with columns 'アクティビティ名', 'ID', 'プロセス インスタンス...', '作成日', '状態', '期限', and '優先度' is shown, with a message 'レコードが見つかりませんでした' below it. The footer of the page contains 'バージョン情報 | Copyright 2010-2011 FUJITSU LIMITED'.

3. プロセスインスタンスサブメニューをクリックし、中止状態のプロセスインスタンスを選択します。プロセスインスタンスを選択した後、BPNMタブを選択します。

The screenshot displays the Systemwalker console interface. At the top, the header includes the Systemwalker logo, the text 'sample002 コンソール', and navigation menus for 'プロセスグループ', '履歴', 'お気に入り', 'ヘルプ', '設定', 'ユーザー ID: 0005', and 'ログアウト'. The main content area shows a notification '5 プロセス インスタンスが見つかりました' above a table of process instances.

プロセス インスタンス...	ID	プロセス定義	開始日	状態	優...	所有者	起案者	期限
sample002	1968	sample002	2010/12/20	✓ 終了	8	swrbaadmin	0005	
sample002-3	1935	sample002-3	2010/12/20	✓ 終了	8	swrbaadmin	0005	
sample002	1907	sample002	2010/12/20	▶ 実行中	8	swrbaadmin	0005	
<b>sample002-2</b>	<b>1882</b>	<b>sample002-2</b>	<b>2010/12/20</b>	⊗ 中止	<b>8</b>	<b>swrbaad...</b>	<b>0005</b>	
sample002-3	1795	sample002-3	2010/12/20	✓ 終了	8	swrbaadmin	0005	

Below the table, the 'プロセス インスタンス詳細' section is active, with the 'BPMN' tab selected. A legend at the top of the diagram area defines status colors: 未開始 (white), 終了 (blue), 割当て済 (green), 待機中 (yellow), エラー (red), and 一時停止/中止済 (orange). The BPMN diagram for 'sample002-3' shows a flow starting from a 'Start' node to a task 'swrba Exe 任意のコマンド...', which then flows to an 'SwrbaGrp 1 Activity4' group. From this group, an 'OK' path leads to 'Exit3' and an 'NG' path leads to another task 'swrba Exe メールを送信する1', which then flows to 'Exit4'.

4. 処理を再開させるノードにマウスカーソルを合わせ、右クリックメニューから“活性化”を選択します。  
 以下の画面では、中止になったノードに対して活性化の操作を選択しています。

Systemwalker sample002 コントロール プロセスグループ 履歴 お気に入り ヘルプ 設定 ユーザー ID: 0005 ログアウト FUJITSU

5 プロセス インスタンスが見つかりました

プロセス	インスタ...	ID	プロセス定義	開始日	状態	優...	所有者	起案者	期限
sample002		1968	sample002	2010/12/20	✓ 終了	8	swrbaadmin	0005	
sample002-3		1935	sample002-3	2010/12/20	✓ 終了	8	swrbaadmin	0005	
sample002		1907	sample002	2010/12/20	▶ 実行中	8	swrbaadmin	0005	
<b>sample002-2</b>		<b>1882</b>	<b>sample002-2</b>	<b>2010/12/20</b>	⊗ 中止	<b>8</b>	<b>swrbaad...</b>	<b>0005</b>	
sample002-3		1795	sample002-3	2010/12/20	✓ 終了	8	swrbaadmin	0005	

プロセス インスタンス詳細 全画面表示 BPMNビューの更新

要約 詳細 BPMN

未開始 終了 割当て済 待機中 エラー 一時停止/中止済

sample002-3

swrba Exe 任意のコマンド...

Arrow7

swrba Exe 任意のコマンド...

活性化

- フォーム
- アクション
- タイマー
- トリガ
- 期限
- Iteratorカウント
- ダイナミック タスクの表示
- カスタムメッセージの表示
- 設定...
- グローバル設定...
- Adobe Flash Player 10 (について)

swrba Exe メールを返信する1

NG

中止になったノードの前後のノードを活性化することも可能です。

5 プロセス インスタンスが見つかりました

プロセス インスタ...	ID	プロセス定義	開始日	状態	優...	所有者	起案者	期限
sample002	1968	sample002	2010/12/20	✓ 終了	8	swrbaadmin	0005	
sample002-3	1935	sample002-3	2010/12/20	✓ 終了	8	swrbaadmin	0005	
sample002	1907	sample002	2010/12/20	▶ 実行中	8	swrbaadmin	0005	
<b>sample002-2</b>	<b>1882</b>	<b>sample002-2</b>	<b>2010/12/20</b>	⊗ 中止	8	<b>swrbaad...</b>	<b>0005</b>	
sample002-3	1795	sample002-3	2010/12/20	✓ 終了	8	swrbaadmin	0005	

プロセス インスタンス詳細

全画面表示 BPMNビューの更新

要約 詳細 BPMN

未開始 終了 割当て済 待機中 エラー 一時停止/中止済

sample002-3

swrba Eke 任意のコマンド...

swrba Eke 任意のコマンド...

swrba Eke ノールを送信する1

Arrow7

OK

Exit3

NG

End

Exit4

活性化

- フォーム
- アクション
- タイマー
- トリガ
- 期限
- Iteratorカウント
- ダイナミック タスクの表示
- カスタムメッセージの表示
- 設定...
- グローバル設定...
- Adobe Flash Player 10 について

5. 再活性化後、プロセスインスタンスの状態が、中止状態になっていないことを確認してください。

5 プロセス インスタンスが見つかりました

プロセス インスタ...	ID	プロセス定義	開始日	状態	優...	所有者	起案者	期限
sample002	1968	sample002	2010/12/20	✓ 終了	8	swrbaadmin	0005	
<b>sample002-3</b>	<b>1935</b>	<b>sample002-3</b>	<b>2010/12/20</b>	✓ 終了	8	<b>swrbaad...</b>	<b>0005</b>	
sample002	1907	sample002	2010/12/20	▶ 実行中	8	swrbaadmin	0005	
<b>sample002-2</b>	<b>1882</b>	<b>sample002-2</b>	<b>2010/12/20</b>	✓ 終了	8	<b>swrbaad...</b>	<b>0005</b>	
sample002-3	1795	sample002-3	2010/12/20	✓ 終了	8	swrbaadmin	0005	

プロセス インスタンス詳細

全画面表示 BPMNビューの更新

要約 詳細 BPMN

未開始 終了 割当て済 待機中 エラー 一時停止/中止済

sample002-3

Start

swrba Eke 任意のコマンド...

swrba Eke 任意のコマンド...

swrba Eke ノールを送信する1

Arrow7

OK

Exit3

NG

End

Exit4



 **注意**

再活性化に成功した場合、処理結果のメッセージはWebコンソールに表示されませんので、プロセスインスタンスリストの状態を確認することで処理結果を確認してください。